

# 〔県民局だより〕

## 耕種農家による稲 WCS の生産について

～岡山中央稲わら収集組合～

備前県民局 畜産班

### 1. はじめに

今回、紹介する岡山中央稲わら収集組合は、岡山市南部を中心に米や麦の栽培を行ってきた耕種農家による組織です。

この組合は、今まで自己所有地や請負地で焼却・土壌還元されていた稲わらを収集し、肉用牛農家等へ供給するため、平成18年に設立しました。

また、平成19年からは、転作作物として稲発酵粗飼料用稲（以下、飼料用稲）の作付けを行い、併せて収穫調整にも取り組むこととなりました。

### 2. 稲発酵粗飼料（WCS）への取り組み

これまで、長らく休耕田であったり、条件の悪い湿田へ、転作作物として何を栽培するかが課題となっており、湿田でも栽培可能で、水田機能の維持もできる飼料用稲の作付けを行うことにしました。

組合では、食用稲の作業もあるため、飼料用稲の作業が重複しないよう、品種として晩稲のアケボノを選択し、食用稲から1ヶ月ほど遅らせて移植を実施しました。

また、収穫・調整作業については、既存機械体系及び専用機械体系で行い、作業効率等を比較しました。

飼料用稲の作業内容及び収量については表のとおりです。

#### 作業内容

| 作業内容等        | WCS                  | 食用稲                  | 備考(WCS)          |
|--------------|----------------------|----------------------|------------------|
| 除草剤散布        | なし                   | 6月上旬                 | 5～7月に2～3回代かき     |
| 移植<br>化成肥料散布 | 7/20                 | 6月中・下旬               | ハイパーKSコート        |
| 除草剤散布        | 7/25                 | 6月下旬                 | 7月末～8月上旬:<br>土用干 |
| 害虫防除         | 8/10                 | 7月中旬                 |                  |
| 出穂           | 9/21                 | 9月上旬                 |                  |
| 落水           | 10/1                 | 10月上旬                |                  |
| 収穫・調整        | 予定:10/10<br>実施:10/5～ | 予定:10/15<br>実施:10/10 | 糊熟期              |

### 収量

| 品種   | 収穫面積 | 収量          | 総収量   |
|------|------|-------------|-------|
| アケボノ | 3ha  | 1,513kg/10a | 45.4t |

| 機械体系   | ペール   |       |         | 個数/10a |
|--------|-------|-------|---------|--------|
|        | 直径    | 高さ    | 重量      |        |
| 既存機械体系 | 100cm | 100cm | 250kg/個 | 11個    |
| 専用機械体系 | 100cm | 85cm  | 300kg/個 | 5個     |

### 3. 実際に取り組んで・・・

既存機械体系及び専用機械体系での作業の比較を行いました。専用機械体系は既存機械体系の約1/3の時間で作業が実施でき、仮に、食用稲の収穫作業と重なることがあっても、専用機械があれば、食用稲の収穫作業の間にも作業ができることがわかりました。また、専用機械の方がロールへの土の付着も少なく品質の良い製品ができました。

収量については、専用機械体系で収穫・調整を実施した圃場は、本年度は特に水はけが悪く泥濘地であったため既存機械体系と比較して、収量が少なくなりましたが、良好な土地条件であれば、通常の収量は期待できるものと思われました。



(写真)  
専用機械での  
収穫作業風景

また、使用した既存機械のWCSの切断長は9cm、専用機械での切断長は3cmでしたが、

給与に協力していただいた農場に聞き取りを行ったところ、フォークで WCS を分配するには、切断長の長いロールの方が作業性がよかったとのことでした。



(写真)  
WCS 給与

移植から収穫までの作業については、食用稲とほぼ同じであったため、不安を感じることなく、取り組むことができました。

また、食用稲と飼料用稲の移植作業が重複しないよう工夫したため、労力的な負担を感じることなく実施することができました。

その他、稲わら収集は、畜産農家との橋渡しや書類作成等について、農協の協力があり、安心して取り組むことができたので、これと同様に飼料

用稲についても農協の協力をいただけたら、取り組む耕種農家が増えていくと思います。

一方、反省点として、収穫時期を早めてしまい、圃場が乾かない中、作業を行うことになり、ロールに濡れた土がついてしまったり、圃場を練って荒らしてしまいました。次回は、しっかり乾いてから収穫作業が実施できるよう、収穫時期を1週間ほど遅らせる予定です。

#### 4. 最後に・・・

今後も、組合では、稲わらや WCS を畜産農家へ供給することで耕畜連携を推進し、来年度はさらに、飼料用稲の取組面積を増やすとともに、新たにイタリアンライグラスの栽培にも取り組む予定にしています。

新規に、WCS へ取り組んでみたいという耕種農家の情報がある場合は、県民局または農業普及指導センターまで連絡をよろしく願いいたします。